

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年 4 月 13 日

事業所名 ジョイジョイ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1		
	2 職員の配置数は適切である	9			配置基準よりも多く配置し、細やかな支援へと繋がるようにしている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5	2	古い民家で、玄関等の段差や急な階段があるため、対象児の状態に応じて1階部分で活動するなどの配慮をしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9			全体ミーティング等で担当者会議を行い、広く職員が参画できる場を設けている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	2	ジョイジョイだよりの定期的な発行を続ける
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	6	支援の内容についての評価や意見等をもらう機会が少ない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			研修報告、月4回の事業所内研修開催、職員向けのお薦め書籍の貸し出し等、さまざまな機会を設けることができた。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	1	今年度は読みのアセスメントツールを用いることができた。今後は認知面のアセスメントツールを用いて、支援に役立てていきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	8		1	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		1	料理の内容やお出かけプログラム等、毎年、新たなことを準備し、工夫されていると思う。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		1	利用する児童の特性などに考慮しながら設定する
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	9			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		1	打ち合わせの時間設定はしていないが、職員間で振り返りながら支援の記録をとるようにしている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9			6か月に1度モニタリングをし、見直しを立てることができている	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6	3		個別、集団療育の組み合わせを個別に配慮しながら組み立てる	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			1年間担当者がつき、個別の課題と一緒に取り組む体制をとっている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	2	1	学校との情報共有はしていないが、保護者と連絡調整、情報共有をしている。 保護者の方を通して情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	4		主治医意見書などを職員全員が周知していく。主治医には書面にて伝える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	4		園等での支援計画等の情報や保護者主体の情報提供、もしくはご希望がなければ難しいが、なるべく共有できるように面談時に話し合う場を持つように努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	6		学校を卒業した利用者がまだいないため機会がないが、今後希望に応じて情報共有していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		2	事業所交流会等に出席し、助言や研修を受ける機会がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	1	3	教会学校への案内等、機会を提供している。キャンプやクリスマス会に参加する利用者の方もおられた。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	1	3	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			連絡帳で伝えたり、送迎時に状況を説明したりするよう努めている。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9			外部講師による講演会を行い、保護者の対応力の向上を支援している。今年度は3回行った。面談時に、課題に対する工夫やご家庭でも工夫していただきたいことを共有することがある。お便り等でも情報を発信した。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1		契約時に丁寧な説明を行う。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	1		年3回保護者会を開催した。講師をお招きし、ご家庭でできる支援の方法等を学ぶ機会を持ち、保護者同士が情報交換する機会を持たた。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9			なるべく、対面で話せるような機会を積極的に作っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			年3回お便りを発行することができた。全利用者への配布、ホームページへの掲載をした。
	35	個人情報に十分注意している	9			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			対象児に合わせてなるべくわかりやすく伝えるよう努めた。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	3	事業所ではなく本部の行事を広く周知し、活動を知っていただく機会はあった。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9			ミーティング時に職員間で情報共有している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			さまざまな場面を設定し、全利用者、全職員が供えられるよう定期的に行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1	1	1	契約時に丁寧な説明を行ない、双方の意見をすり合わせる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			1	アレルギーについては、保護者を通じてどのように対応するかを情報共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			1	ミーティング時に広くスタッフ間で情報を共有し、対策について話し合える場があった。